道徳科学習指導案

日　時　令和７年 12 月 18 日（木）
第５校時　13:20～14:05
学校名
対　象　第６学年　組　　名
会　場　６年　組　教室
授業者

１　主題名

法やきまりを守る意味　　C　規則の尊重

２　ねらいと教材名

⑴　ねらい　　法やきまりを守ることの意味を考え、気持ちのよい集団や社会を作ろうとする心情を育てる。

⑵　教材名　「ここを走れば」（出典：『道徳６　きみが　いちばん　ひかるとき』光村図書）

３　主題設定の理由

⑴　価値観

本主題は、小学校学習指導要領（平成 29 年３月告示）

> 第３章　特別の教科　道徳　　第２　内容
> C　主として集団や社会との関わりに関すること
> [規則の尊重]第５学年及び第６学年
> 法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たすこと。

を受けて設定した。

小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　特別の教科　道徳編によると、「児童が成長することは、同時に所属する集団や社会を構成する一員として集団や社会の様々な規範を身に付けていくことでもある。そのためにも、約束や法、きまりを進んで守ることができるようにすることが必要である。（中略）特に、人と人が仲間をつくり、よりよい人間関係を形成する上では、自分の思いのままに行動するのではなく、集団や社会のために自分が何をすればよいのか、また、自分に何ができるのか、自他の権利を十分に尊重する中で果たすべき自らの義務を考え、進んで約束やきまりを守って行動する態度を養うことが必要である。」と記されている。集団に所属する自己を意識し、自身や他者の権利を尊重しながら規則を守ることの重要性について述べられている。

法やきまりは、国や自治体、学級など様々な規模の集団にあり、集団を構成する人や環境の特性、時代や状況に応じて、所属する人々が気持ちよく安全に過ごすことができるように定められる。そして、集団に所属する人々がそれを守ることで効果を発揮する。

一方で、法やきまりを守ることが、必ずしも自分の利益や望みと一致するとは限らない。自身の望みを優先したいがため、法やきまりの意義をいくら理解していても、「誰も見ていないならば」「少しくらいならば」「他の人もしているならば」といった自分本位な感情を抱くこともある。このような感情を乗り越えて、法やきまりを守る心情が育つ。そのためには、法やきまりの「意

義を理解する」だけではなく、集団に所属する自他の権利を守ろうという公徳心に支えられた「自律」が必要になる。

このような法やきまりの性質を踏まえ、自身が法やきまりを守り他者の権利を尊重する必要があること、他者が法やきまりを守るからこそ自身の権利が守られることに気付けるようにする。

⑵ 児童観

規則の尊重に関連して、以下のような実態がある。

【学級での様子】

本学級の児童は、これまでの学校生活や道徳科の授業で、きまりや約束の意義について考える機会をもってきた。その中で、「皆が気持ちよく過ごすため」など、集団を意識して規則を捉える考えも見られている。一方で、学校生活の中でのきまりや約束を守れない場面、他者が不快になるような行動をする場面も見られ、その際に「他の人もしていたから」「このくらいならよいと思った」など、自分に都合のよい解釈を判断基準にする姿も見られる。

【「法」の捉え】

学習指導要領の高学年の内容項目で明記される「法」については、社会科の学習や生活経験で、「法＝国が定めた、日本国民が守るきまり」だと理解している。「他のきまりより重いものである」「自分の生活とはあまり関係のない、遠い存在」といった捉えをしている児童も見られる。1学期の道徳科の授業（内容項目は公正、公平、社会正義）では、いじめ防止対策推進法を紹介し、事例を基に話合いをした。その際、「自分たちも法律違反をしていた場面があるかもしれない。」「法律を守るのは、意外と難しいのではないか。」「法律だから守る。ではなく、相手の立場に立って考えることが大事。」と考えるなど、法に対して考えを深める児童も少数見られた。

【事前アンケートより】調査日：令和7年10月29日（水）　回答人数：30人

以下の回答から、きまりを守ることは大切だという思いを全員がもちながらも、生活の中では、きまりを守れなかった経験をもつ児童が大多数であることが分かる。また、きまりを守ろうとする理由に着目すると、自律的なものと「きまりだから」といった他律的なものが見られる。きまりを守れなかった理由としては、「急いでいた」「したいことを優先した」など、自分本位なものが多い。

<table>
<tr><td>内容</td><td colspan="2">回答</td></tr>
<tr><td>（1）あなたの知っているきまりや、身の回りにあるきまりを教えてください。</td><td colspan="2">携帯を使ってよい時間を守る、学校にシャープペンシルを持って来ない、廊下を走らない、ごみの分別、赤信号は渡らない、条例、法律、憲法、マナー</td></tr>
<tr><td rowspan="4">（2－1）決まりを守ることは大切だと思いますか。

（2―2）どうして（2－1）で回答したように思うのですか。</td><td rowspan="2">思う
14人</td><td>・きまりは守るためにあるから。
・それで社会が成り立っているから。
・（きまりは）自分や他人の身を危険から守るものだから。
・（守らないと）他の人に迷惑をかけるから。</td></tr>
<tr><td>まあ思う
16人</td><td>・破ったら意味がないから。
・みんながよりよく過ごすためにあるものだから。</td></tr>
<tr><td colspan="2">あまり思わない　0人</td></tr>
<tr><td colspan="2">思わない　0人</td></tr>
</table>

（3―1）決まりを守れなかったことはありますか。（3－2）（3－1）で「ある」と回答した人のみ回答。どうして守れなかったのか、教えてください。	ある　25人 ない　5人	・自分のしたいことを優先してしまったから。 ・静かにするべきところで、自分のことのみを考えてしまったから。 ・ふざけていたから。 ・急いでいたから。 ・そうするしかなかったから。仕方なかったから。 ・投げやりな気持ちになっていたから。

以上の実態から、授業を通して、自分の事情を優先したくなったときに、同じ集団で過ごしている他者に目を向けながら、きまりを守ることの意味を考えるよう促す。また、法についても本質は身近なきまりと同じである。本授業を同じ組織、地域や国といった社会に生きる自分や他者を意識するきっかけとする。

⑶　教材観

【教材の概要】

主人公「ぼく」には、孫には優しい反面、頑固で人に迷惑をかけることを嫌う厳しい性格をした父方の祖父がいる。その祖父が危篤となった知らせが届いた。父が運転する車に乗り、高速道路を通って病院へ向かう途中、交通事故が原因で渋滞となった。すると、徐々に路側帯を通る自動車が現れ始める。「ぼく」と妹は、路側帯を通るよう父に伝えるが、父は「法律で定められている」「あんなことはできない」と言って通らなかった。

結局、「ぼく」たちが到着したとき、祖父は既に亡くなっていた。「ぼく」は、「あのとき、路側帯を走っていたら―。」と思いながら父の顔を見たが、そのとき、涙を流す父の姿を見て、はっとした。

【教材文活用の視点】

- 世の中には、法律で定められていてもそれが守られていない現状があることに触れ、法は守るものだと分かっていても、気持ちが揺れてしまう状況や気持ちを想像する。
- 主人公の気持ちを想像し、父の葛藤に気付けるよう促す。葛藤の末に法律を守った父の思いから、法やきまりを守る意味を考えられるようにする。
- 法やきまりは一人が守っているだけでは成り立たず、本教材の父のような思いをもった人が集まった上に法やきまりが守られ、自他の権利が尊重される社会が成り立つことに気付けるようにする。

【教材分析】

場面 （登場人物の言動）	心の動き	○　考えられる発問 ◎　中心発問（関連する価値）
①　おじいさんについての記述	・　優しいおじいさんのことが大好きだ。 ・　がんこで厳しい人だとは想像がつかない。	（C　家族愛、家庭生活の充実）
②　おじいさんが倒れたことを知る。	・　おじいさんが心配だ。 ・　早く高山に着き、おじいさんに会いたい。 ・　高山まで遠いが、間に合うだろうか。 ・　家族みんな同じ気持ちのはずだ。	○　おじいさんが倒れたことを知ったとき、「ぼく」はどんなことを考えたでしょう。 （C　家族愛、家庭生活の充実） （D　生命の尊さ）

③　渋滞が起こる。	・　こんな時に限って間が悪い。 ・　待っていられない。 ・　早く着く方法はないだろうか。	（A　善悪の判断、自律、自由と責任）
④　路側帯に気付く。数台の車が路側帯を通る。	・　法を守ることは大切だ。 ・　ここを通れば、早く着ける。 ・　自分たちのような状況だったら、通ってもよいのではないか。 ・　他の車も走っている。	○　「ぼく」は、自分たちが路側帯を通ることについて、どう考えていたでしょう。 （A　善悪の判断、自律、自由と責任）
⑤　父の言葉を聞く。	・　納得できない。 ・　お父さんは、おじいさんが心配ではないのだろうか。	○　お父さんは、「ぼく」や妹に言われても、路側帯を走らないと言ったとき、どんなことを考えていたのでしょう。 ○　お父さんは、どんな人のことを考えて、法を守ったのでしょう。 （D　生命の尊さ）
⑥　高山に到着し、間に合わなかったことを知る。	・　おじいさんに会えず、とても悲しい。 ・　やっぱり、路側帯を通った方がよかった。 ・　お父さんの選択は間違っていた。	（C　家族愛、家庭生活の充実）
⑦　涙を流す父を見る。	・　おじいさんを心配に思う気持ちはぼくと同じだったんだ。 ・　お父さんがそれでも法を守ったのは、なぜだろう。 ↓ ・　もしも路側帯を通って、間に合ったとしても、他の人に迷惑がかかってしまったかもしれない。 ・　皆が同じようにきまりを守ることで、皆の命や安全が守られるんだ。	◎　ぼくは「はっとした」あと、お父さんが路側帯を走らなかったことについて、何を考えたのでしょう。 （C　家族愛、家庭生活の充実）

4　年間指導計画における位置付け

9月　主題名　権利を守るとは　　C　規則の尊重
　　教材名　「世界人権宣言から学ぼう」
12月　主題名　法やきまりを守る意味　　C　規則の尊重（本時）
　　教材名　「ここを走れば」

5　指導に当たって

本時のねらいに迫るために、以下の工夫を行う。

⑴　道徳的諸価値について理解を深める工夫

ア　板書の工夫

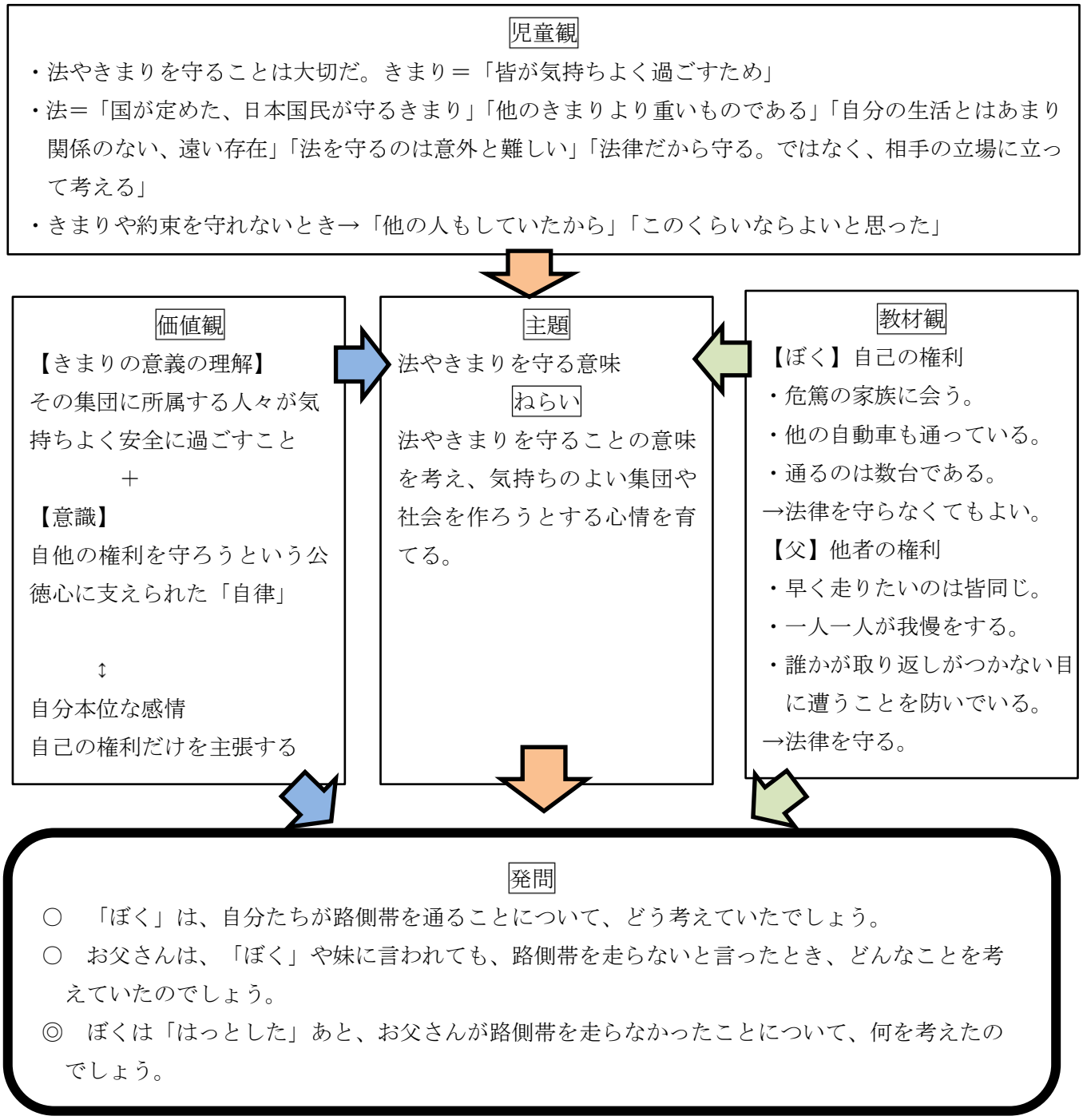
対比型の構造で板書する。これにより、規則の尊重について、それぞれの人物が何に対して意識を向けているか、比較して気付けるようにする。

イ　スライドによる教材提示

スライドで教材提示や情報の補足を行うことで、内容に入り込み、より自分事として考えられるようにする。

ウ　発問構成の工夫

指導観を基に発問を構成することで、その意図を明確にした。



⑵　主体的に思いを伝え合う工夫

ア　学習形態の工夫

机を使用せず、椅子を二重の円形に配置して授業を行うことで、児童の心理的な距離を減らし、より円滑に考えを交流できるようにする。

⑶　自己の生き方についての考えを深めるため工夫

ア　振り返りの視点

振り返りの時間に、「～という経験があった。」「今、～と思う。」など、文例で視点を示す。これによって、本時のねらいとする価値について、自己についてより深く振り返りができるようにする。

６　本時

⑴　学習指導過程

時間	学習内容・学習活動 ○　発問　◎　中心発問　・　予想される児童の発言	◇　指導上の留意点 ◆　評価の視点
導入 ３分	１　本時の学習への意欲・関心、問題意識をもつ。 ○　きまりを守ることは大切だと全員が思っているが、守れなかったことがある人が多い。法やきまりを守ることに、どんな考えをもっていますか。 法やきまりを守ること	◇　アンケート結果を確認しながら、きまりを守ろうという意識と実態の差から、問題意識をもつことができるようにする。
展開 40 分	２　教材の読み聞かせを視聴し、発問について考え、話し合う。 ○　「ぼく」は、自分たちが路側帯を通ることについて、どう考えていたでしょう。 ・　法を守るのは確かに大切だ。 ・　ここを通れば、早く着ける。 ・　自分たちのような状況だったら、通ってもよいのではないか。 ・　他の車も走っているからよいのではないか。 ○　お父さんは、「ぼく」や妹に言われても、路側帯を走らないと言ったとき、どんなことを考えていたのでしょう。 ・　自分の事情で、他人に迷惑がかかってはならない。 ・　たとえ親（祖父）の命がかかっていても、自分の信念は守りたい。 ・　父（祖父）も、きまりを守ることを大切に考えているはずだ。 補助○　お父さんは、どんな人のことを考えて、法を守ったのでしょう。 ◎　ぼくは「はっとした」あと、お父さんが路側帯を走らなかったことについて、何を考えたのでしょう。	◇　岐阜県高山市までの距離や路側帯の様子など、葛藤を考える要素になる内容を確認する。 ◇　祖父の人柄、主人公の祖父への思い等を押さえる。 ◇　意見交流は、全体と３、４人のグループの形式で行う。全体交流では、椅子を円形に配置し、児童の心理的な距離を減らし、より円滑に考えを交流できるようにする。 ◇　中心発問について深く考えられるよう、時系列を遡り、祖父を思う「父」の心情、法を守ったことへの後悔は無いことを押さえる。 ◆　法やきまりを守る意味や、守ろうとする心情につ

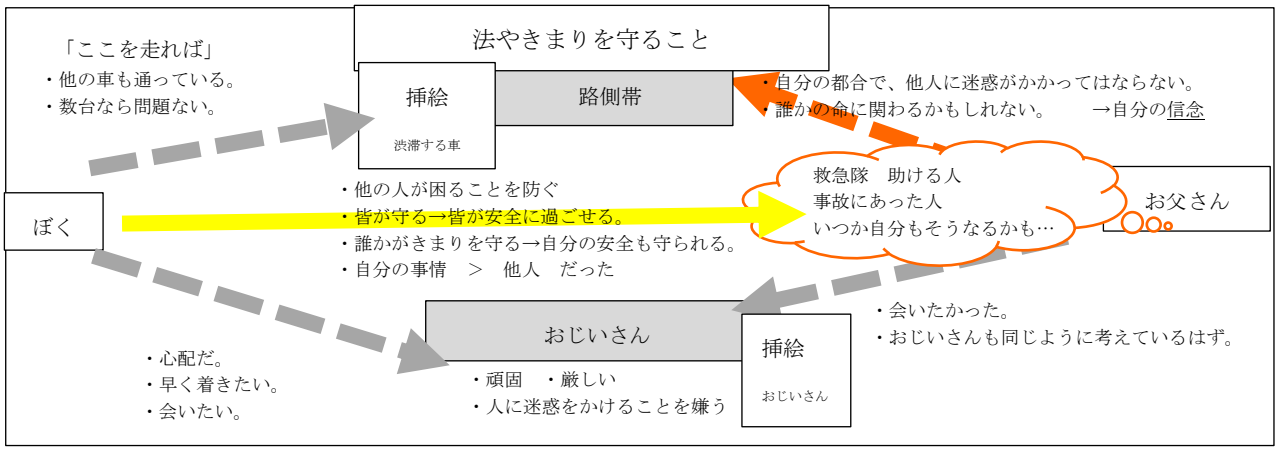
	・　（お父さんが）法律を守ったのは、他の人が困ることを防ぐためなんだ。 ・　お父さんは、きまりを守って皆の安全を守ろうとした。 ・　きまりを皆が守ることで、皆が安全に過ごせるんだ。 ・　誰かがきまりを守ると、自分の安全も守られるんだ。 ・　ぼくは、きまりの目的より自分の事情を優先していたな。 3　本時の学習を振り返る。 法やきまりを守ること ○　これまで、法やきまりがある場面で、どんなことを考えていましたか。自分のことを振り返りましょう。	いて、多面的・多角的に考えようとしているか。（話合い、発言） ◆　法やきまりを守る意味や、守ろうとする心情について、自分自身との関わりの中で深めようとしているか。（ノート、発言）
終末 ２分	4　教師の説話を聞く。	◇　価値に関連する教師の体験を話す。

⑵　評価

ア　法やきまりを守る意味や、守ろうとする心情について、多面的・多角的に考えようとしているか。（話合い、発言）

イ　法やきまりを守る意味や、守ろうとする心情について、自分自身との関わりの中で深めようとしているか。（ノート、発言）

⑶　板書計画



⑷　授業観察の視点

ア　学習指導過程の構成と指導の手立て、発問構成は適切なものとなっていたか。

イ　物事を多面的・多角的に考える学習活動は適切であったか。

ウ　教材や教具、板書の工夫、ＩＣＴ機器の活用は適切であったか。